



大谷っ子

R7.12.1

第14号

朝日町立大谷小学校
校長 遠藤 秀彦



ふるさと大谷を想い お互いを大切にし
未来をたくましく生きる子供の育成

「校長講話＝校長にとって大事な授業の懇談会」 ～次代に思いを伝える～

だれもが小中学生の時、体育館等に集合し「校長講話（校長先生の話）」を聞いた経験があると思います。

私は、子供たちに話す機会を大切にしています。成長の糧となるような時間にしたいと考えているからです。時間は15分。必死に内容を考え絞り込みます。

今回は、「挑戦し続ける」をテーマに、今年度ノーベル賞を受賞したお二人の話から始めました。



【ノーベル生理学・医学賞 大阪大学特任教授 坂口志文 氏（74歳）】

◇ 研究に必要なのは「運（うん）・鈍（どん）・根（こん）」！

・「運」＝幸運 人の出会い！（視野を広げる）

・「鈍」＝鈍感 なんとかなる！（心的余裕を生む）

・「根」＝根気 ダメなら次を考える！やり続ける！（継続は力に）

【ノーベル化学賞 京都大学特別教授 北川進 氏（74歳）】

◇ 「お前はうそつきだ」「お前は間違っている」と言わされたこともあった。

しかし、「絶対無理だと言われることに挑戦してきた！」（くじけず、あきらめず）

「50年以上も挑戦し続けたすごさ」を紹介した後、本校、用務員 工藤 孝の話をしました。今年度「県写真連盟展賞」を受賞した県トップクラスの写真家です。

工藤は、一つ一つ作品を紹介しながら、「好きなことを続けること」「続けていると応援してくれる人が絶対に現れること」を子供たちに語ってくれました。



令和7年度「県写真連盟展賞」

タイトル

「田楽提灯の大谷っ子」

撮影者：工藤 孝

※実際の作品はカラーです。

※11月末まで、玄関ホールで、

「工藤孝写真展」を開催しました。

【大谷小に關わる全ての人が子供を育んでいる！】

～登校時の子供たちから見える、学校・家庭・地域の姿～

私は、毎朝、玄関前に立ち、子供たちの登校を待っています。そこには、担任の時には見えていなかった子供たちの姿がありました。

【毎朝の挨拶】

私は、「学校に来ただけで『えらい！』」と思っています。そのうえ、全員がきちんと挨拶できるのです。

声の大きさは関係ありません。「**毎日学校に来て、挨拶ができる人**」に育っているのです。これは、これから社会の一員として活躍する子供にとって、とても大切なことだと思うのです。



【雨の日には…】

傘の水滴を一滴も残さないように払ってから学校に入ります。校内が水で濡れないようにと。

教員が指導しているわけではありません。「**これまでの先輩たちの姿**」が受け継がれているのです。ここまで徹底している学校は、なかなかありません。

【タクシー通学の児童】

入学式の次の日から、毎朝欠かさず、しっかりとおじぎをし「ありがとうございました。」と感謝を伝えています。とても感心しています。

「**小さい頃に身に付けたことは一生の宝**」です。



こんなこともありました。ある日、子供たちがゴミを拾いながら登校してきました。「どうしたの？」と聞くと、こう答えました。「**小林重敏さん（毎日、子供たちの登校を見守ってくださっています）**が拾っているから、『ぼくたちも拾いたい』って、道具を貸してもらったんです。」と。

「子供は、学校を　家庭を　地域を映す鏡」

子供は私たちが思っている以上に大人を見ています。子供がどんな大人へと成長するのかは、学校・家庭・地域、すべての人々の言動や立ち振る舞いが大きく影響するのだと改めて感じています。子供たちのロールモデル（手本）でありたいと思います。

おめでとう！

【建設業労働災害防止作品】

入選　白田 新奈　白田 光

【名勝「大沼の浮島」俳句大会】

金賞　川村 凪永

【寒河江・西村山地区小学生人権書道コンテスト】

優秀賞　佐藤 直生

【朝日町小中学校児童生徒ひめさゆり俳句大会】

佐竹 伸一 選

佳作　志藤 春人　村山 八重　和南城愛生

守谷 茂泰 選

佳作　塚本 龍誠　阿部 真歩　和南城愛生